

坂本城跡第18次発掘調査報告書



2013

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯・事業の経過

姫路市書写 2437 番 1 他において貸介護施設の建設が計画された。対象地は坂本城跡（県遺跡番号 020134）に該当するため、本発掘調査（第 18 次調査：調査番号 20130275）を実施する運びとなった。調査期間は平成 25 年（2013 年）9 月 25、26 日で、調査面積は 45 m²である。現地調査終了後、出土品等の整理作業を開始し、本書の刊行をもって完了した。

2. 坂本城跡の概要

書写山円教寺の南麓に所在する坂本城は、夢前川が形成した河岸段丘の突端部に位置する平城で、南側と西側は段丘崖に面している。室町時代には播磨守護職の赤松氏の政治拠点の一つであったとされる。城の四周は堀が囲発し、城の規模は東西約 170m、南北約 170m と推定される。その所在地は長らく不明であったが、1981 年に地名と遺物の分布から小字「構江」が坂本城跡に比定された。

最初の発掘調査（1 次調査）は、1981 年から翌年にかけて市道書写東西線の建設に伴って実施された。続いて、市立書写中学校のテニスコートの造成に伴い 2 次調査がおこなわれた。これらの調査の結果、城の東側では堀が二重になっていたことが明らかになった。外側の堀は、幅約 4.5m、深さ約 1.8m を測り、堀底には障壁が 1 箇所確認された。埋土からは備前焼鉢や土師器皿、柿経など 15～16 世紀の遺物が出土した。ただし、上層からは少量ながら肥前系陶器皿が出土しており、完全に埋没したのは近世以降とみられる。内側の堀は幅 10～12m、深さは 2 m 以上を測り、遺物はほとんど出土しなかった。2 条の堀の前後・並存関係は不明であるが、間隔が約 15m あり、本来は土塁が存在したと推定される。これらの調査と合せて今回が 18 次調査にあたる（図 1）。

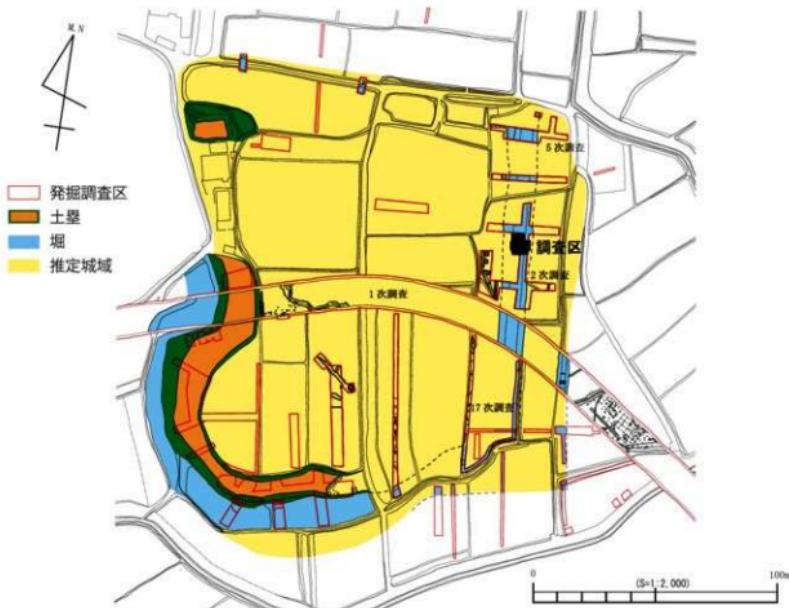


図 1 坂本城跡の既往調査

3. 発掘調査の成果

調査箇所は、2次調査で確認された内側の堀に位置すると想定された（図2）。調査区の層序は、地表から約1.4～2.0mは現代の盛土が存在し、その下に暗灰黄色粘質土が約20～90cm以上堆積していた。調査区の東壁付近では暗灰黄色粘質土が薄くなり、その下にオリーブ灰色シルト質粘土の薄い層と浅黄色粘質土ブロックを含む灰オリーブ色粘質土が40cm以上にわたって堆積していた（図3）。暗灰黄色粘質土からは激しい湧水があった。開発工事が深さ2m以上に及ばないことから、掘削は標高30.0m付近で停止した。このため、地山は検出していない。

遺物は、備前焼甕（1）・壺（2）、土師器皿（3）・炮烙（4）が出土した（写真図版）。このうち、4は暗灰黄色粘質土、その他の遺物はそれより上層から出土した。1は口縁部片、2は底部片である。4は体部から内湾しながら口縁部に至り、端部内面に面をもち、外面に突帯や凹線が認められない個体で、姫路周辺では17世紀代に出土するタイプである。

2次調査では標高30.8mで地山黄色土の落ち込み（堀の肩）を検出しているため、今回の調査区は全体が内側の堀の内部に相当し、暗灰黄色粘質土は堀の上層の埋土とみられる。この暗灰黄色粘質土から炮烙（4）が出土したことから、城城の東を区画する二重の堀は、外側の堀と同様に内側の堀も近世以降に完全に埋没したと考えられる。

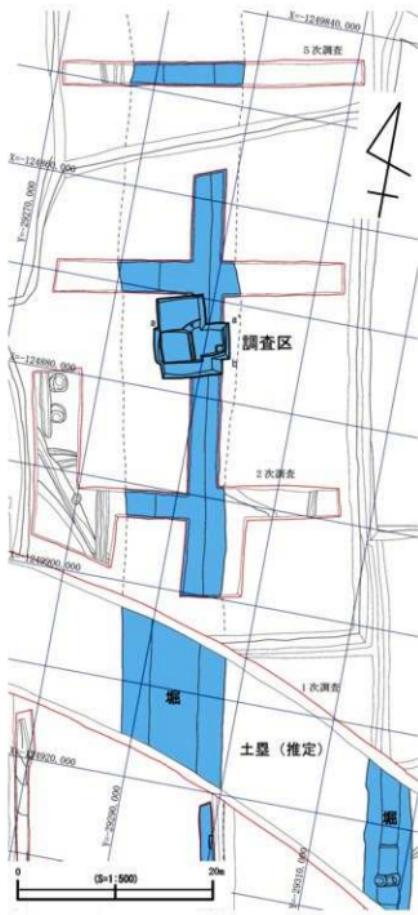


図2 調査区位置図

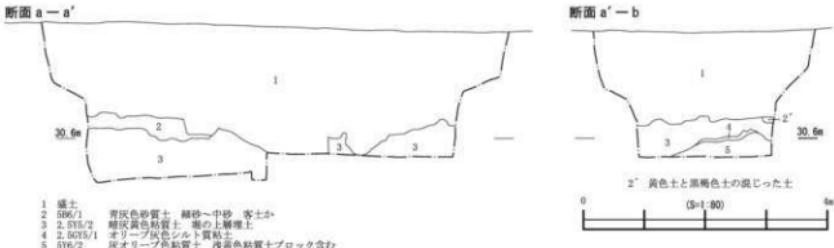


図3 調査区土層断面図



調査区全景(南から)

調査区全景(南西から)



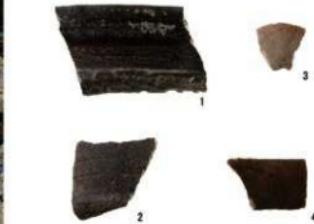
調査区東壁(西から)



調査区西壁(南東から)



調査風景



出土遺物

1 本書は、姫路市書写2437番1他で実施した坂本城跡第18次発掘調査の報告書である。

2 調査は、事業者からの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。

3 本発掘調査は、姫路市教育委員会埋蔵文化財センターの指揮和が担当した。

4 本書の執筆・叢集は南重和がおこなった。

5 調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターが保管している。広く活用されたい。

6 標高値は、東京湾平均海準(T.P.)を基準としている。方位は座標北を示し、南北の場合はN/Sを記した。

7 土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修『新版 地質土色帖』に準拠した。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第21集

坂本城跡第18次発掘調査報告書

編 集 姫路市埋蔵文化財センター

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1

発 行 姫路市教育委員会

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

発行日 平成26年(2014年)3月31日

印 刷 松尾印刷株式会社